

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年3月8日】第75号



## 学習発表会

2月26日(金)、農大稲花小では初めてとなる学習発表会が行われました。初年度にも年度末に実施を計画していたものですが、残念ながら、新型コロナウイルス感染症による一斉臨時休業のため中止となってしまいました。今年度も、保護者の皆様に来校していただいたりすることができません。また、内容についても新型コロナウイルス感染防止の観点から、合唱、群読、あるいは集団的な行動を伴うものができません。そこで、今年度の学習発表会は、一人一人が発表したいことを一人1分程度で行い、それを録画しオンラインで視聴するとともに、保護者の皆様に配信することにしました。普段の授業を大切にする方針から、特別の時間をとることはせず、担任・副担任、さらに事務部も協力して、指導、録画、編集、配信を行いました。

学習発表会の当日、子どもたちは録画を教室で視聴しました。自分の発表だけでなく、友だちの発表にも熱心に見入っています。2年生は1年生の発表も視聴したのですが、「うまくできるかな」「がんばって」と応援する気持ちが表れているところに、上級生としての成長を感じました。

保護者の皆様にも録画をご覧いただきましたが、ご自分のお子様だけでなく、お友だちの成長をも一緒に喜べる機会となったことを願っています。

## 法人の日

3月6日(土)は法人の日。学校法人東京農業大学の創立記念日です。この法人の日を前に、3月4日(木)、稲花小学校の児童は、1891(明治24)年のこの日に東京農業大学へとつながる私立育英覚農業科ができたこと、作ったのは榎本武揚公であること、その言葉「冒険は最高の師である」が農大稲花小の教育の理念「冒険心の育成」にあらわされていること、1911(明治44)年に東京農業大学と名前が変わり横井時敬博士が初代学長となったこと、さらにその言葉「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」などを学びました。子どもたちからは自然に、「農大がずっとあってよかったね」「法人の日は農大の誕生日だ」「誕生日だから拍手」といった声があがったと担任から報告を受けています。子どもたちには、自らが学校法人東京農業大学の長い歴史の中にあることを知り、その一員として誇りをもって農大稲花小で学んでほしいものです。

## 稲にきく

3月4日(木)、2年生の稲花タイムは校長が担当しました。タイトルは「稲にきく」。稲、米、ご飯の3つの言葉に着目し、主食としての大切さ、またすべてを余すところなく使える稲のすばらしさを、様々な実物を見ながら学びました。しゃもじ、御櫃、寿司桶、あるいはゴザ、糠、玄米茶、米油…と一つ一つを見た後、わら、粳、玄米、白米(うるち)、もち米、黒米、赤米、インディカ米が配布され、子どもたちはそれぞれを、実態顕微鏡で観察しました。

なおこの日、農大稲花小の子どもたちは全員、お米(品種；ひとめぼれ)を500グラムずつ持ち帰りました。これは、本校の関係者からのご紹介があり、有限会社おっとちグリーンステーションより農大稲花小の児童へと500グラム入りパック160袋をご寄贈いただいたものです。宮城県登米町にあるこの会社は、稲作、大豆、野菜の3つの部門で構成された複合経営の組織で、平成25年度第52回農林水産祭内閣総理大臣賞を受賞されています。代表者のご息子が東京農業大の卒業生(校友)というご縁があり、この度のご寄贈となりました。

農大稲花小の子どもたちには、稲について、また稲作に取り組む人々について理解を深めながら、おいしく「ひとめぼれ」を味わえたことと思います。

有限会社おっとちグリーンステーション：<http://ottochi.co.jp/company.html>

## 緊急事態宣言の再延長

「緊急事態宣言」が、本校の所在地である東京都を含む1都3県を対象として、3月21日(日)まで再度延長されました。このため本校でも、原則として現在の対応を3月18日(木)の終業式まで継続することとしました。これに伴い、3月15日(月)に予定しておりました遠足(1年生 多摩動物公園、2年生 新江ノ島水族館)については、大変残念ながら中止としました。楽しみにしていた子どもたちには気の毒ですが、やむを得ません。今後も、油断することなく、しかし、子どもたちを萎縮させることなく、新型コロナウイルスに対する感染防止措置を継続してまいります。子どもたちの生活が早くのびのびとした平常に戻れるよう、私たち大人も責任をもって、感染防止に努めたいものです。

校長 夏秋 啓子